

令和4年12月26日

令和4年度 松山デザイナー専門学校
学校関係者評価委員会報告書

学校法人松山ビジネスカレッジ 松山デザイナー専門学校 学校関係者評価委員会は「令和4年度自己評価」結果を基に、学校関係者評価を行いました。その結果を以下のとおり報告いたします。

1. 令和4年度学校関係者評価委員会

委員	平山 誠	(株式会社アトリエ き・な・こ 代表取締役)
	平岡 宏幸	(株式会社 FAKIE\STANCE 代表取締役)
	大野 淳	(株式会社 Weather cock 代表取締役)
	梶原 一貴	(個人事業主)
	唐崎 秀樹	(愛媛信用金庫 地域事業振興部推進役)
	亀岡 ゆかり	(ファッションクリエイター学科 在校生保護者)
	岡本 美智代	(ファッションビジネス学科 在校生保護者)
	池田 昭子	(Webクリエイター学科 在校生保護者)
	宮本 加代	(松山女学院専門学校 卒業生)

敬称略

教職員	松岡 由紀子	(学校法人松山ビジネスカレッジ 常務理事)
	室 利幸	(松山デザイナー専門学校 校長)
	岡田 善雄	(学校法人松山ビジネスカレッジ 管理本部長)
	重信 克也	(学校法人松山ビジネスカレッジ 管理本部次長)
	大野 幸美	(ファッションクリエイター学科 学科長)
	神田 瑞穂	(ファッションビジネス学科 学科長)
	高橋 良昌	(Webクリエイター学科 学科長)

2. 実施内容

- 開会、出席者紹介、校長挨拶
- 自己評価報告 (1) 教育理念・目標
(2) 学校運営
(3) 教育活動
(4) 学修成果
(5) 学生支援
(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集

- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

質疑応答、意見交換

3. 自己評価報告に関する補足説明

<教育活動>

- ・学生が松山にいながら東京・大阪の現場、実践に近い非常勤講師から授業等を受講できる機会を今後も積極的に確保していくようにしていく。

<学習成果>

- ・ファッション系の資格試験については、全国平均より高い合格率を維持しており、引続き早い段階から計画的に小テストや模擬試験など資格試験対策を実施し高い合格率を目指す。
- ・今年度のファッション系コンテストは、第13回 N-1 モードグランプリ 1名入選と3年連続でヘアメイク系の LUXEBEAUTY 主催のコンテストに1名入選した。
- ・令和5年2月11日に Web クリエイター学科と連携し、伊予鉄高島屋で作品の発表会として「松山コレクション」を開催する予定。

<学生支援>

- ・学生相談に対する取組みとして、公認心理師によるカウンセリングルームを設置し、就職や日常生活の中での心配ごとや不安を解消できるよう取り組んでいる。

<教育環境>

- ・1年生全員に PC を無料で貸与し、館内全フロアを Wi-Fi がつながる環境にしている。今後も学生がより効率的な学習活動ができるようにしていく。

4. 学校関係者評価（意見交換、質疑応答）

（委員からの質問）

- ・退学理由、作品を作るための素材の調達方法、Web クリエイター学科の資格取得や就職先について教えてほしい。

（回答）

- ・退学理由は、家庭内の経済的な事情や精神的な体調不良等があり、個別に保護者を含めて対応している。
- ・作品で使用する素材は、県内の事業先から布の寄付もあるが、基本的に学生が自分の作品にあう素材を探して自費で調達している。
- ・資格試験については、Web デザイナーの基礎として Illustrator、PhotoShop、能力検定の取得を目指している。

- ・就職先については、大手の Web 会社や県内・県外の Web 関連の就職先を斡旋している。

(委員からの意見)

- ・コロナ禍において、学生のコミュニケーションの機会が減ってきていると感じている。

(回答)

- ・入学時のオリエンテーションがコロナ禍の影響で実施することができなかつたが、今後、課外授業やグループ研究等で学生間のコミュニケーションの機会を増やしていきたいと考えている。

(委員からの意見)

- ・現在の学生は、SNS 等で自分の作品をアピールできる機会があり、とても楽しそうに学生生活を送っているように感じている。これからも SNS 等の情報発信を楽しみにしている。
- ・子供の学校での活動や学習成果を SNS 等で視聴でき、とても楽しみにしている。今後もできるだけ多く情報発信してほしい。

(回答)

- ・学校でのイベントや学習成果をあらゆる機会を通じて SNS 等で情報発信していけるように努力していく。

(委員からの質問)

- ・外部講師の選択基準、職業訓練としての即戦力への対応について教えてほしい。

(回答)

- ・外部講師については、ファッション関係の現場に直結している人材を人的関係で採用している。
- ・即戦力への対応については、職業実践専門課程の教育課程編成委員会で学外委員の企業経営者や業界関係の方から、学校のカリキュラムについて就職先の現場でミスマッチが起きないように意見をいただき改善に取り組んでいる。

以上